

奈良の
むかし
ばなし
第85話

たんれい
端嶺和尚の雨乞い

文・山崎しげ子

奈良県の南部、吉野川南岸の吉野郡

下市町。町の80%近くを森林が占める。

奈良市から車で走ること一時間半。杉

檜の緑濃い森に、白く淡い木洩れ陽が

射し、樹々を渡る風も実に爽やかだ。

だが、森が多い反面、山裾の狭い田畑



で懸命に働く農民たちも多くいた。今
回は、そんな農民たちを苦難から救っ
た高僧のお話。

* * *

昔、昔、江戸時代中頃のこと。西来寺の
住職で、端嶺和尚という徳の高いお坊
さんがおられた。

ある年、ひどい日照りが続いて農民
たちは困り果て、和尚に雨乞いを頼む
ことにした。

和尚は、早速、傘と墨を持ち、一同を従
えて山桜の美しい桜坂を越え仏ヶ峰の
地藏堂に向かった。

その地藏堂で、和尚は大きな声で一
心にお経をあげた。というのも、昔から
古い神仏を祀るところには必ず蛇が住
んでいて、お経をあげて雨乞いをする
と、その蛇が龍となって昇天し、雨を降
らせるとされていたのだ。

和尚はさらに熱心に天まで届きそう
な大声でお経をあげた。そして、和尚は

自分の白い衣に墨をベタベタと塗り始
めた。すると不思議なことに、和尚の体
に一匹の白蛇がぐるぐる巻き付き、白
蛇は墨に染まって黒蛇となり、やがて
黒蛇は龍となって空高く昇っていった。
和尚は、「さあ、これでよし」と言い、呆気
にとられてこの様子を見ていた農民た
ちを急ぎ立て、峠を下り始めた。

一同が峠を下り切らぬうちに、何と
何と、恵みの雨が傘も破れんばかりに
降ってきた。田畑は潤い、村人の中には
うれしさのあまり踊りだす者もいた
とか。

* * *

さて、下市といえば、日本最初の商
業手形「下市札」で有名。始まりは室町
時代とか。下市はさらに奥地、また広
く吉野地方との交易も頻繁で、物産の
集散地として市が立ち、さらに市場町
として発展。そんな中で「下市札」が使
われた。

* * *

大坂城の築城では大量の木材が大坂
まで運ばれ、城下の建設にも使われた。
「山家なれども下市は都、大坂商人の津
でござる」との歌も。当時の賑わいがし
のばれる。「下市札」は下市観光文化セ
ンターで展示

7月5日オープン
下市に体験型複合商業施設

木と共に、
きっと出会える

KITO
FOREST MARKET
SHIMOICHI



吉野地方の商業の中
心で、下市札の発祥の地
として知られる下市町に
て、空き校舎となった旧下市南小学校が体験
型複合商業施設「KITO(キト)」に生まれ
変わります。プロデュースするのはアパレル事
業などを手掛ける株式会社パルグループ。
「ひと」と「体験」をつなぐ場所として、薪窯
でピザを焼くレストランカフェやショップ、
ベーカリー、キッズスペース、
マルシェなどを展開。吉野地
方や下市町の農作物や特産
品を使い、さまざまなプロダ
クトが開発されています。

場所・アクセス

- 所 下市町善城664-1
- 近鉄 下市口駅から
奈良交通バスで約10分



KITO
☎0747-58-8117

